焦点

奉仕料金で協力
奇篤な床屋さん二題

△…その一…▽

米の値上りを筆頭に物価はドンドンあがり、大牟田では散髪代が百五十円（A級）に引上げられた。荒尾でも近く百二十円になるらしい。ところがこれらの風潮に抗して最近理髪代を大人五十円、子供丸刈り二十円に大巾値下げした奇篤な床屋さんが居る。万田社宅に程近い倉掛の蓮尾、土居、百谷各理容店がそれで、事の起りは土手山下地域分会の甲斐繁能氏が、かねて懇意な蓮尾哲信氏に苦しい炭鉱労働者の生活を訴え、冗談のように値下げ問題を持ちかけて見たところ、かねてそのことを思い続けて居た蓮尾さんは「日頃御世話になつて居る炭鉱の方達にこんな時こそ御報いしなければ」と二つ返事で引受け、然し自分だけ値下げして附近の同業者に迷惑をかけてはと土居さんや百谷さん達にも相談したところ快く承諾が得られ、話合の上で今度の値下げ断行になつたもの。因みに蓮尾さんはお父さんの代から既に四十五年も現在のところに店を出し、社宅の人達を主な御とくいにして居る関係上先の六十三日ストの時にも値下げで闘争に協力、甲斐地域分会長も「商店が案外協力して呉れない中にあつて蓮尾さん達理髪業者さんだけは全面的に協力して下さるので非常に感謝して居ます」と語つて居た。

△…その二…▽

四山中区警察通りに「三鉱厚生理髪館」と一際目を惹く大看板をかゝげた理髪店がある頑固なところはあるが腕のよさで知られた河本光次さんの店である。初め三川支部だけの指定理髪店だつたが去年の一月、本部厚生部との話合で三鉱一本の厚生理髪館となつたもの、何分大人五十五円、おかつぱ三十円、丸刈二十五円と云う安さなので御客は押すな押すなの盛況、息子さん夫婦に職人さんまで加えた四人がゝりで朝から晩まで立ちづめで働いても四台の椅子が空く暇もない位〃腕が好い上に安い、親切だ〃と組合員、家族の受けも上々、当の河本さんは

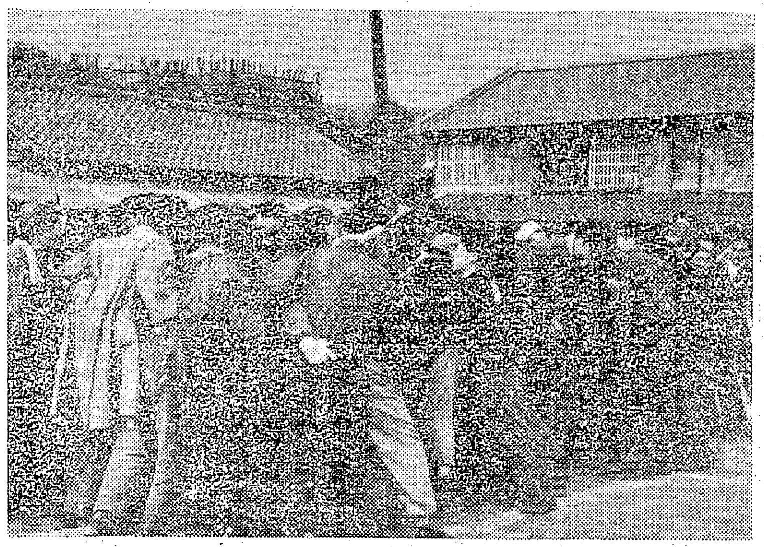
「料金を安くして居るので理容士組合からは反感を持たれて居ますが、炭鉱で働く人達の収入と睨み合せて考える場合これ以上は取れません。賃金でも上つたらその時は理髪料金も少しは上げて頂けるでしょうが現在のところではどうも……その意味で今度の賃上げ闘争は私達のために闘つて下さつて居るのと同じだと思つて居ます。金が入つたからと云つて炭鉱の人は家、蔵建てる訳ではなし、みんな地元の業者にバラ撒くのですから業者の側でももつと常日頃から協力するよう心掛けなければ罰が当ります」

河本さんは重い口でそう語るのだつた。同息子さん共々二年越し荒尾の養老院に理髪奉仕を続ける篤行の主である事も附け加えて置きたい。

（写真上＝左から蓮尾さん、土居さん甲斐地域分会長　同下＝左端が河本さん）

攻撃軍は揉みクチャ
眞剣そのもの　ピケ破りに備えて猛訓練

時限スト、そして原炭搬送拒否の反復により、賃金闘争は粘り強く闘われて居る。これに対し会社側は目下のところ沈黙を守り通して居るが、何時ロック・アウト（事業場閉鎖）の挙に出るかわかつたものではない。その場合の対抗手段である総員引揚をめぐつて紛争が予想されないでもないので各支部では時限ストの早あがりを利用してピケ訓練を続けている。宮浦、三川、四山各ヤマの訓練状況を覗いて見よう。



宮浦支部

各方昇坑者が組合事務所横の広場にあつまり、こゝで主としてピケ破りに対する防禦訓練が行われている。仮装警官を含む約廿名程がピケ破りに廻り、どうしたら破られないで済むか色々な場合を想定して、これに対抗する臨機応変の戦術（？）が実地に演練されるほか、諸般の注意事項が伝えられる執行部からも勿論参加するが、主として職場闘争委員の人達が自主的に行つている。

四山支部

各方繰込み前に労働歌の合唱を行つたのち、その場でスクラムを組みピケ破りに備えて、こんな場合はこう、こう来たらどうすると指導、訓練を行つて居るが、熱の入れ方は大したもので、攻撃軍はもみクチャにされるのであまりなり手がない。またこのほか地域分会でも行動隊を動員して真剣な実地訓練が続けられている。

三川支部

組合事務所裏の広場が訓練の場所にあてられているが、実際と変りない眞剣さで、攻撃軍（ピケ破り）に廻つてもんでいた酒井支部長が、あまり実が入りすぎて軽傷ではあるが、左眼を傷つけ他にも軽い怪我人数名を出すという騒ぎ、その代りどんなにピケ破りが押しかけてもピクともしないだけの自信を身につけている。

人車に觸れ重傷

去る十日午後十一時頃、三川鉱仕繰工吉田春義氏（四〇）は火薬を受領して第二斜坑六目貫から七目貫に行く途中七目貫のフオームにさしかゝつた際人車が下つて来たので、これを避けようとして誤つて人車に触れ右大たい挫創、左下挫創全治三週間の重傷を負つた。現場安全協議会で事故の原因を究明すると共に防止策を練つている。

頑張るぞ財布の紐を引きしめて
〝勝抜く標語〟入選發表

今度の賃金闘争を勝ち抜くため長期闘争に音をあげないだけの家計の引締め、合理化が望まれて居るので厚生部ではこれに役立つ標語を組合員、家族から募つて居たが締切りの十日までに三百をこえる応募があつたので本支部厚生部長それに三池炭婦協の評議員を加えたメンバーで厳正な審査を行つた結果次の入選標語を決定した。

特選

四山　堀前　春男
裏切つて泣くより唄へ労働歌

入選

三川　永野　定一
闘争中見たさ着たさはおと廻し
四山　清本　春喜
闘争の二字がゆるさぬ無駄使い
三川　佐藤　妙子
高利で泣くより粗食で笑え
四山　徳永ミツエ
闘争に勝つも負けるも家庭から
頑張るぞ財布の紐を引き締めて
三川　岡本　順治
勝つ迄は母の得意のスト料理
四山　田島テルヱ
しぼれよ支出固めよ団結
三川　大城　幸男
何が何んでも勝ち抜くぞ禁酒禁煙パチンコ止めて
三川　橋本　シズ
身近かな闘い手近かな節約
三川　福島謙貫春
晩酌も止めてニツコリピケライン
佳作略

保安標語

かねて労働部で募集中だつた保安思想昂揚に関する標語は多数の応募の中から労働部長会議で選を行つた結果次のように入選標語決定

四山　徳永　喜市
破つた規則が我が身を破る
四山　堀前　春男
一寸までお前それでよいのかね
三川　沢村　吉保
遵法で今日も明るい湯の窪
うつかり大事故しつかり注意
三川　英木　又一
活かす遵法輝く勝利
三川　大城　幸男
父ちやん御無事と笑顔で送り坊やとうたう労働歌
港務　荒木　初義
保安！休憩さあ！仕事
港務　松尾　達也
保安指示堅く守つて作業に従事、鉱山も明るく家庭も楽し
本所　吉永　円治
ゆるんだ保安で締めてデマはねとばす労働歌

揃う足並昂まる意識
激戦地は明鉱三山
三池から各山に指導員を派遣

今度の賃金闘争に際し、特に九炭労からの強い要望に基き三池から十三名の闘争指導員（執行部十名、決議機関三名）を各山に派遣、強力な闘争の推進を期して活躍中であるが、去る十七日九炭でひらかれた指導員会の終了後三池の指導員のみ西鉱運に集め連絡打合せを行つた。そこで蒐められた情報を要約すると大体次の如くである。

明鉱三山

ここは先次闘争における濠穏にも比すべき激戦地で、連盟もこの三山に重点を指向して闘団の切崩しに努めている。特に九、十の両日会社側が原炭搬出を強行したに対し、三池から山下書記次長はじめ十名の指導員を繰り出し、大衆動員によりこれを阻止したが、とりわけ青年行動隊、炭婦協の活躍ぶりは目覚ましいものがあり、また賃金カットの悪宣伝に対する組合員の憤激もあつて志気は日に増し昂揚して来ている。

立山労組　高田指導員

組合員八一〇、組夫（請負）一一〇名、組合の前には絶えず赤旗がなびき、闘争意欲がみなぎつている。団交の場合など組合員の自然発生的な大衆行動が行われるまでに至つている。

西杵労組　花園指導員

組合員七三三名、組夫二四〇名、職域地域としての闘争組織が全くなく、炭婦協も結成されていない情宣は指示のみに頼つている状態で、今次闘争の意義も充分徹底しない憾みがあつたが指導員が行つてからは社宅の常会を開催して活溌な情宣活動を続けた結果、漸く意識が昂つて来ている。職組が炭労を脱退した際はデモをかけた。

佐賀労組　山下指導員

組合員五一七名、組夫一三四名、臨時夫四名、昨年四月開山したばかりで施設は最も近代的、社宅は全組合員にわたるだけ完備し、赤瓦の文化住宅である。組合員の多くは農村出身で意識は低く、また収入は坑内平均一万七千円、坑外同一万二千円で比較的恵まれている。一般に労使協調の気分が強く炭労の指令によるもの丶ほかまだ闘争をやつた事がない。そういう訳で指導に当つても非常な慎重さを要したが、誠実に接する限り積極的にこれをうけいれ、現在では繰込場での情宣活動や労働歌の合唱、さては初めてのデモ行進など目に見えて階級意識がたかまつている。

日炭相浦労組　高田指導員

従業員在籍五八九名、組夫三五名組合員五八九名中非組合員六〇名（保安、発破係員）、出炭目標月産八千噸、実績五千噸内外、従業員の半数がキリスト教信者であり「人の和」ということを重大視し闘争「あらそい」など行うことはいけないとの観念が非常に強い。公休出勤等も神の許しがないと出来ないとして朝早く洗礼を受けにいく習慣がある。繰込場（会社施設）等では情宣、ビラ掲示　放送等は行わないとの協約に基く禁止事項があるが、現在では大胆に情宣が行われるまでに志気が昂揚して来て実施している。一口伝単を毎日配布して闘争指導を行つているが、見違える程進歩して来た。十五、六日頃より民労系的一部分子の壁新聞等による切崩しが行われているが、組合の強い反撃を受けている。

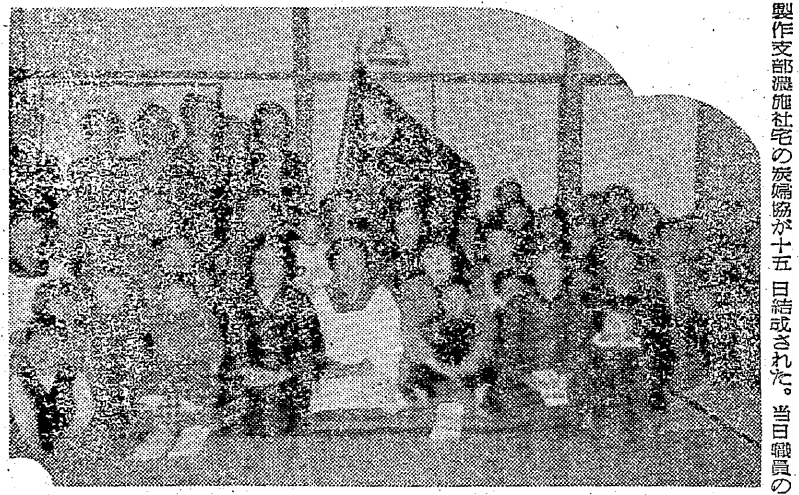
三菱鯰田労組　広沢指導員

一坑組合（坑外）六七二名、鯰田労組（坑内）二、六〇〇名、炭婦協は、一坑組合は結成されているが、職労は未結成である。理事会その他省略。

（三池の委員会）闘争中は闘争委員会の活動が不活発な恨みがあつたが、現在では活溌な行動によつて組合員の意欲も非常に昂揚している。職組が炭労に加入していないので就労中の作業遂行に三池等より苦労が多い。

参加率も上乗
濃施炭婦協結成さる

製作支部濃施社宅の炭婦協が十五日結成された。当日職員の家族を除く四十一名中、三十四名が集会所に集り、製作支部中原教宣部長から闘争経過報告をきゝ規約を審議決定、役員選任の急には詮考委員を擧げて早急決定の上成るべく早く総会を開いて確認を求めることとし、午後二時散会したが、これで同支部は全社宅の炭婦協結成を終つた訳で、参加率も上々、炭婦協製作支部は愈々万全の態勢を整えるに至つた。



誕生した炭婦協濃施社宅分會

詩
炭鑛のお母さんたち
野中　三郎

おどされ　すくめで　気もうろろの
主婦の心が
軒下に　濡れながら　集つまり
日射病で　たをれた人もある広場で
主婦の力は　固たまり
ねむれぬ夜　夜具のはしをにぎり
　正しいことのむづかしさを悲しんだ主婦たち
だん／＼
だん／＼と
女を取りかえし　人間をとりかえし
夫と一体だと　感じた時のよろこび
苦しさをはねのけ
夫と子供を守るための闘いが
八月七日
スト規正法のできた翌日
主婦達は　足音高く　進み出した。
夜中に　ピツ／＼ワツショイに
聞える虫の音
ふいてもふいても　ぬれる幼子のかみを
ふいていた　若いお母さん
下着まで　ズブヌレのまゝ
お母さんの看病をする中年のお母さん
電車の中で　だき合つて暖をとる人々
決して　この主婦の心の灯を
九月四日の冷雨も消せなかつた
四日三晩　山ノ上で　夫を守り抜いた
主婦の顔のやつれ
八百名のケイカン隊の中に一人で飛びこみ
セツトクをした叔母さん
みんな平凡なお母さんです
みんな平凡なお嫁さんです
勝利の知らせに
泣きくづれ　うごかなかつた
お母さん
百十日の闘いに　きたえられた
お母さんの
美しさを何にたとえていゝだろう
僕はたゞ
お母さんたちに　いつまでも美しさのつゞくことを祈る

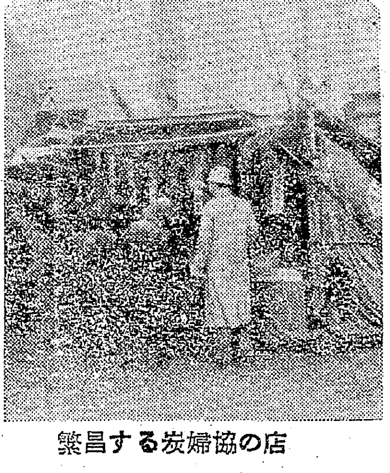
作文
しんぶん
笹原校五年　山下　益美

おかあさんただいま、五円といつて家にかえるとおかあさんの姿は見えずお父さんが机にむかつて一生けんめいに新聞を広げて何かかきうつしていられた。お父さんはひまがあると新聞記事のその日の出来事などを自作の「いろはじてん」に記入されるのが習慣でお母さんや妹などがお父さんのことを字書き虫とあだなをつけて笑うのです。組合の新聞「みいけ」が発行されるようになつてから僕はお父さんから読んでいただいて座り込みやデモなどで毎日たゝかつている様子を話してくださいます。また僕が幼いころからよく「くろだいや新聞」「みいけ」などに短歌や俳句など出して色々賞品をもらつて来て僕達をよろこばせたことを覚えています。僕も「みいけ」に作文募集「はたかぜ」があつた。始めて出してみるとそれがなんと発表の時入選者中に僕の名が小さくのつていた時のうれしさは今も忘れられません。しんぶんは毎日僕達によいことを知らせてくれます。

新聞「みいけ」はいまでは組合員の人達にはなくてはならないもの丶一つのようになつています。お父さんが「みいけ」新聞は何でもよいから出してよかつよといわれましたのでこれからもどしどし出してみようと思つています。

コクンゾウさんの御利益？
西原繁昌炭婦協との店
地域分会

春の虚空蔵祭りで賑う西原の通りに真紅の組合旗をなびかせた風変りな店が一軒、覗いて見ると西原炭婦協の主婦達が六、七人、エプロン姿も甲斐々々しく〃御土産どうです？〃〃坊ちゃんに嬢ちゃんに御菓子は如何です？〃と参詣帰りの人々に呼びかけて居る。時々松永さん始め西原地域分会の人達も成績如何にと案じ顔で覗きに来る。賃金カンパのため地域分会と炭婦協が協同で出した御菓子の店である。他に加倉さんの御宅の庭先を利用して自転車預り所も設けられている。朝来の雨で人出が大分減殺されたが、それでも中々の好成績〃収益は全部社宅の運動会の費用にあてます〃と松永分会長もエビス顔だつた。



繁昌する炭婦協の店

☆職場合唱團も特別出演☆

樂しい合唱の夕べ
25日、中央合唱團來演

九州巡演中の中央合唱団の大牟田公演が来る。廿五日午後六時から本所体育館で催される事となつた。一行は中尾美代子さん堀井きみよさん以下廿名（男十名女十名）プロローグの「仲間達」「若者よ」に次いで、特別出演として本所、三作、宮浦の各職場合唱団も参加、世界民謡めぐり、歌唱指導、日本の歌声（組曲）最後に娯楽版（中央合唱団のかくし藝）等健康で楽しい多彩なプログラムで聴衆を魅了しよう。

古賀新三氏をコーチに
張り切る驛傳選手

宮浦支部では間近に迫つた三鉱駅伝に備え、友山山野からマラソン界の古豪古賀新三氏を招聘して十五日から廿日まで、毎日午後二時から二時間程度コーチに当つて貰つている。柔軟体操から走法の実際まで一々手をとつての指導に、選手はメキメキ上達を示しているので、今度の大会では立派な実を結ぶものと期待される。なお同支部の駅伝出場選手は次のように決定を見ている。

一区＝藤木岩雄　二区＝久保田しげる　三区＝中山圭一　四区＝清水正一　五区＝池松三憲　六区＝倉斗満　七区＝鷲崎年雄　八区＝辻啓輔　補欠＝平山敏、池田二、矢部一人。

働く人こそ威張る権利
かに工船を讀んで
北白川肇子さんの作文

学習院輔仁会で発行している「輔仁会雑誌」の第百七十五号に、同院中等科二年生の元皇族の北白川肇子さんが小林多喜二の「かに工船」を読んだ印象を率直に作文に書いている。同じ雑誌の巻頭には高等科三年生の正仁親王が「アイヌの美人に献げる歌」を書いていて、昨冬朝日新聞が大事件のように紹介したが、北白川さんの作文には一言もふれなかつた。そこで北白川さんの作文を以下に紹介することにする。

（前略）何時の事か、本当の事か知らないけれど、こういう事が現実にあつたのだろうか。とにかくこの話に出て来る監督達は封建的で利己主義で惨酷だ。自分達はなにもしないで威張つていて、他の人が一寸でも仕事をなまけると容赦なくなぐつたり、けつたりする。かに工船に乗り組んだ漁夫たちは、働かされ過ぎて病気になつて動けなくなるまで、朝から晩まで働き続けである。そうしてついに死んでしまつた人もいる。そんな人さえ湯灌をする時にもお湯は勿体ないから贅沢に使うな等という。死体はきたない麻袋に入れて異国の海へ投げ込んでしまう。せめて日本の海でと仲間が頼むけれどやはりそんな面倒な事とばかりに平気で海に捨てゝしまう。

またこの監督は自分達の船にのせている小さい船が、漁に出ていつて見つからないので多分沈んだのだろうと思つて方々を探し、他の船を見つけて、違う事を分つていながら番号をけずつたりして自分の物というようにしてしまう。後でいなくなつた船は帰つてくるけれど、とつた船はどうしたのだろうか。ふらふらになつた雑夫が仕事も出来ずにいるとなぐり殺しかねないし「今だつて小刻みに殺されているけれど、今俺達を殺したら監督は損をする。本当の目的はうんと働かせて自分だけが儲けていればいゝんだ」という状態だから皆でストライキをやることになる。監督の所へいつてワイワイやつていると軍艦がきて士官達が漁夫達をおさえてしまう。かりに金持ちが金を出して船を作つてこゝまで来させたとしても良い。船は水夫と火夫がいなかつたら動くだろうか。雑夫や漁夫がいなかつたらカニがとれるか。金持の懐に一匹だつてはいるだろうか。みんな働く人のおかげなのだ。だから監督達は彼等に対して感謝すべきなのに。

幾日か経つてもう一回ストライキをやるが、こんどは成功して函館へ帰つてから、皆がサボつたのと、収獲が少いのとで監督はくびになり、労働者も前よりも自由になるというので、こゝまで読んでほつとした。いなくなつた小さい船がカムサツカの人にたすけられて、その人達にいわれたことに「日本では働かないでいる金持ばかりが威張つていて、一生懸命働いている人は金持に使われてます／＼まずしくなる。貧しい人だけしか働かないようではないか」という意味の言葉がある。本当なら金持がもつとはたらいて少しでも貧しい人々を助けるべきではないだろうか。働く人こそ威張る権利があるのだ。何もしないで威張つている人より、働いている人の方がずつとえらいのだと思う。

育てよう
労働者の雑誌

九月初旬から各職場の文化サークルや個々の進歩的な人々の間で雑誌を発行しようではないかという空気が出来、大地評小宮会長、映サ協出海氏等が努力して、今回さゝやかであるが四十数頁の雑誌「文学ひろば」が出版された。まことに労働文化の発展上よろこばしいことで、多数の人々の愛読と参加される様、組合より推薦する。以下に同人達の編集後の感想を紹介したい。

我々は、小説や詩が書けるか、書けないかということより民族の文化についての深い関心と、意欲を尊重したいと思う。こゝから新しい国民文学を花咲かせるべきである。

実にうすつぺらな一小冊子である。しかし、とにもかくにも戦後八年間、ちぐはぐの苦しい道をあゆんできた働らく者の文学運動のひとつの集積だ、と思うとなんとも云えない気持だ。

なるほど大牟田にも「三炭文学」「炭都文化」「緑地帯」「地方」「など、印刷の美しい文学誌がだされた。しかし、云つてみれば、残念ながらそれらは根なし草だつた。だからつぶれた。あるいは無期休刊した。

この「文学ひろば」の運命はどうであろうか。私は「ひろば」が根をもつていることを知つている。それが前途を洋々たるものにしている、と信じている。

もちろん「幸福は天からふつて来ない」冬に発刊された「文学ひろば」である。それは、寒風ふきすさび肌さす冷気のなかで種がまかれたのである。花ひらく春をめざして、凍土にめげず、もつともつと根をひろげることだろう。

「文学ひろば」の表紙

新港線を開設
西鐵バス
炭婦協の運動が奏効

西鉄バス市内線が二月一日から新港社宅入口まで引込まれた。新港―四山線が午前六時五分始発、夜十時六分終発まで一時間毎に一日十八本（通勤用一本を含む）新港―米の山線が同五時四十四分から十時四分まで十七本、これは新港社宅の炭婦協　地域分会が中心になつて昨年から猛運動を続けて来たのが効を奏したもので、同社宅から諏訪橋に出るまで一粁近くを歩かなければならなかつた不便がこれですつかり解消した訳、〃力をあわせてやれば何でも出来る〃と特に炭婦協の人達は大よろこびである。

炭都歌人の團結成る
歌誌「環流」を創刊
締切廿三日三月中旬發行

炭都大牟田の短歌人を打つて一丸とした有力な短歌雑誌の創刊は長い間の懸案であつたが、このほど「水がめ」幹部同人岩本宗二郎氏（三鉱労組勤務）を中心に強力団結の機運が着々醸成、それに在牟歌人二宮冬鳥氏（高嶺主宰）、山本和夫氏（アララギ同人）井上光二氏（八雲）永見久四氏（コスモス）等有力なる既成歌人の協力を得て一気に歌誌創刊の運びに至つたもの。歌誌は活版印刷、当初二〇頁程度、月刊、誌名は「環流」と決定、二月廿三日、原稿〆切（各十首）遅くも三月中旬に発行の予定である。なお同誌の創刊については、蒲地正紀（南風）、黒木伝松（創作）、河合恒治（水がめ）氏ら中央歌壇第一線に活躍中の歌人の応援も得ており、華々しい発展が期待されている。

（発行所＝大牟田市城町二丁目堀川宏雄方）

宮浦句會

宮浦俳句会では一月十七日午後六時半より月見ケ丘社宅高むく氏宅にて新年初句会を開催した。

泉　刺花　選

入選句

高田秀太郎
発破母線肩にかついで鉱山始
井手口湖舟
事故ありと坑口に焚く大焚火
加藤　香月
そゝくさとして大寒の坑に入る
江島　春亭
よろこびも悲しみも皆春を待つ
田中　茂末
大寒の駅にどつさと列車便
森　まさと
露天商師走の声をとばしをり
高むく　龍生
坑道にもの音も無く嫁ケ君
中野春暁子
雪かんで下る坑木大斜坑
永野　秀吉
寒餅の年祈ることを大袈裟に

映画紹介
「女の園」

昨年「日本の悲劇」を作つて従来の型を破つた木下恵介はこんどは阿部知二原作の「人工庭園」を脚色した「女の園」を映画化、十二日から京都、奈良、姫路でロケを行つている。リリシズム作家としての木下恵介はフランスから帰つて以来、リアリズムへと著しく変貌し、「日本の悲劇」においてその片りんを示したが、この「女の園」も現代の社会相にむしばまれる若い女達の封建に対するレジスタンスと自由を求める発らつたる青春性を現代女子大学生たちの生態を通じてヒューマニスチックに心あたたかく描こうとするもので、やはりリアリズムが基調となつており、京都、姫路、奈良などの地方色を生かしながら女子学生の種々相に時代の息吹をあたえようとするものである。

俳優も高峰秀子、久我美子、岸恵子、高峰三枝子という顔合せが興味あり、とくに阪東妻三郎の遺児田村高広を起用しているなど木下らしい才気のひらめく作品で最も期待される木下の本年度第一作品である。

来週の映画

△セントラル…（24－3月2）黄昏、非常線
△大天地…（24－3月2）求婚三人娘、続南国太平記
△太陽館…（24－3月2）美しき鷹、さらばラバウル
△銀星…（24－27）アフリカの女王、野戦看護婦（28－3月2）戦う雷鳥師団、地の果てまで
△名画座…（24－3月2）日の果て、この太陽（後）
△荒尾大天地…（24－3月2）求婚三人娘、ギャングをねらう男
△新世界…（24－3月2）さらばラバウル、美しき鷹、無法街
△友楽館…（24－27）お馬は七十七万石、すつとび千両旅、望郷の歌（28－3月2）バラと拳銃、忍術道中記